廣讃寺ジャーナル

第112号
（発行所）
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
携帯 090-1568-4623
〈E-mail〉
matsuoka@kosanji.or.jp

## 如来の智慧を疑惑して

お経はお釈迦さまの説法であり真実である、ということを口では言ってはいるが、本当はうなずいていない自分がいた。

本当にお釈迦さまなんて実在したのか。お経の内容をみても非現実的なことが書いてありこんなことが自分の救いになるとは到底思えないだとか。お釈迦様が悟りを開いたって本当だろうかだとか。二千五百年も前の話なんて途中で話が変わっているのではないだろうか。

などなど、色々な疑惑が邪魔をしてまともにお経に向き合えないことがある。考えてみれば、はなから「お経なんて」と思う時は、なんともない時だ。なんともない時っていうのは苦悩を感じない時のことである。苦悩を感じない時っていうのはある意味、幸せである。だから救済の教えである仏教なんて必要ないし、そもそも救いもいらないと、こうなる。

しかし、苦悩を抱くとき、または何か矛盾というか虚無感みたいなものを感じるようになった時に、お釈迦様の教え、または親鸞聖人の教えにうなずける。お釈迦様や七高僧、宗祖、蓮如上人、たくさんの先人がお前もようやく人生の苦悩に気づいたかと語りかける。そしてその教えは途方もないほどずっと先回りして在ったのだと。そこに仏国土が開けてる。

# 蓮如上人　御影道中

伊藤和美

蓮如上人御道中という行事を知っていますか。本山東本願寺（京都）と吉崎別院（福井県吉崎町）の間を蓮如上人坐像の掛け軸をリアカーに乗せて歩きます。

本山を出て福井県吉崎別院に運ばれます。これは御下向と呼ばれ毎年四月十七日に本山を出発し四月二十三日夕方に吉崎に到着し十昼夜の法要が勤められます。六泊七日の行程です。着いた夜に初逮夜が勤まり五月二日結願日中で十日間の法要を終える。行事の主役は吉崎の同行六人ほどと、それに当日、飛び入りで参加する人々とリアカー1台です。

吉崎から本山へお返しするのが御上洛と呼ばれ、吉崎別院を五月二日に出発し九日に京都の本山に到着します。七泊八日の行程です。

歩く道は旧旧道で宿泊はお寺、旅館、門徒の家などで毎年同じで歩く速さも各場所を通過する時間も定められています。今年、平成二十九年で三百四十四回目となるそうです。

廣讃寺からこの蓮如上人御道中に四回参加しています。

第一回目　平成三年五月七日

参加者二名（廣讃寺前住職・前坊守）

ＪＲ東海道線で米原駅まで行き御上洛道中に合流。米原町から旧国道八号線を彦根まで歩く。帰りは彦根駅からＪＲ東海道線で名古屋へ。

第二回目　平成四年四月十九日

合計参加者三十四名

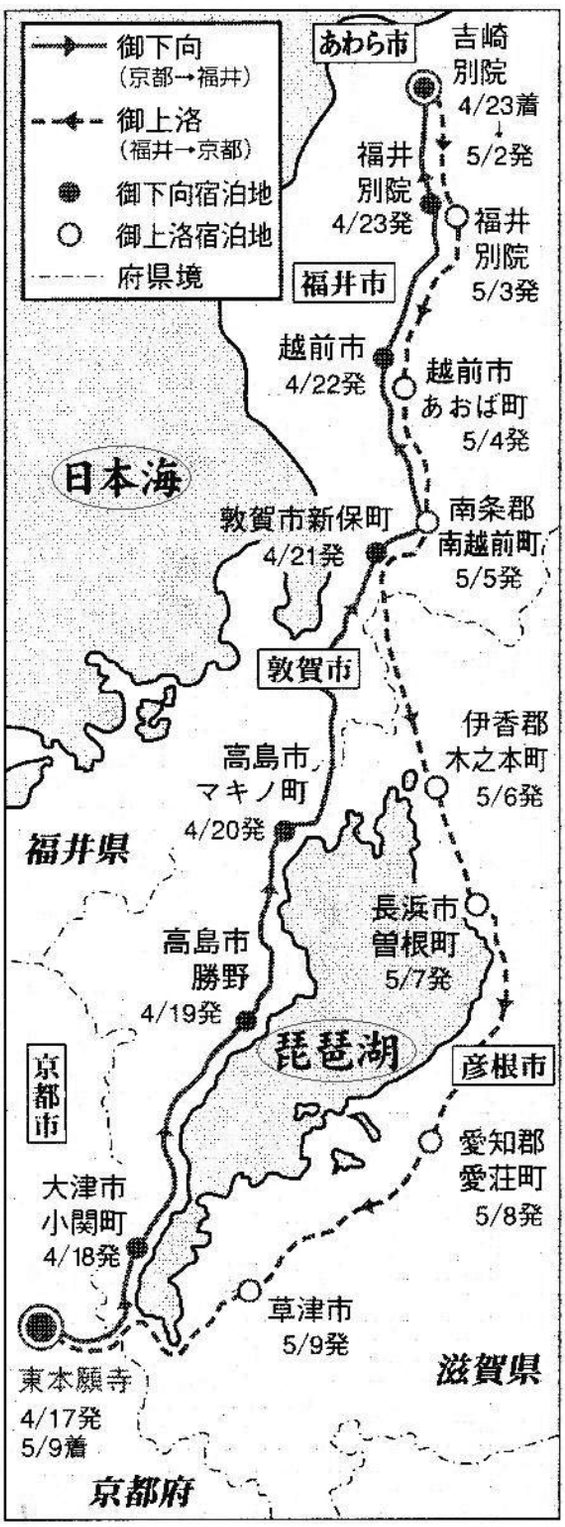
前日午後にＪＲで湖西線高島駅に行き川口旅館に泊まる（十五名）。自家用車で川口旅館まで（五名）当日午前、自家用車三台で十一名が、ＪＲで三名が高島駅に行き御下向道中に合流し高島市から今津町まで歩く。当日午後ＪＲ組は湖西線新旭日駅から乗車し帰路。自家用車組も帰った。

三回目　平成五年四月二十三日

参加者三十九名

当日、ＪＲ特急しらさぎ号で北陸線芦原駅に下車、駅前の永宮寺で御下向の御影を待つ。永宮寺ではお待ち受け法要が勤まる。芦原永宮寺から吉崎別院まで二十四名で歩く。そして四名がＪＲで帰名、残り十一名は乗合バスで吉崎別院に行き御影を待つ。提灯がならぶ中リアカーから輿に乗り換え

## 蓮如上人御影御下向
## 御上洛の経路と日程




到着である。初逮夜が始まり皆でお参りする。その晩、吉崎別院の太鼓堂で三十五名が、ごろ寝する。翌朝四時に太鼓が鳴り初晨朝が始まりお参りし朝のお斎をいただきバスで芦原駅に行き特急しらさぎで帰った。

第四回目　平成二十八年四月十七日

参加者四十名

京都、真宗四本山参拝バス旅行の途中、東本願寺を出発する時に遭遇した。

## 行事予定

七月　八日(土)　七時半　同朋委員会・例会
（役員は七時）

十九日(水)　一時半～　ご命日のつどい
第一回「書いて味わう正信偈」
場所　廣讃寺
（第二回は九月四日　場所は西祐寺）

## 納涼大会

二十三日(日)　夕方から　**納涼大会**（雨天決行）
ボールすくい・輪なげ・
ビンゴ大会などなど…
楽しい催しものがいっぱい。
どなたでもご参加ください。

二十四日(月)　八時　後片付け

二十八日(金)　十時　二十八日講・女人講

八月　六日(日)　二時　常任委員会

十二日(土)　七時半　同朋委員会・例会
（役員は七時）

十九日(土)　二時～四時　学習会

二十八日(月)　十時　二十八日講・女人講

夏休み　境内でのラジオ体操